

学位被授与者氏名	石丸 愛佳
論文題目	平成 30 年 7 月豪雨における避難行動に関する研究
論文審査結果の要旨	<p>本論文は自然災害時における避難行動に関わる意思決定について、同調性バイアスと意思決定の際の参照点に焦点を当て分析したものである。ケーススタディとして平成 30 年 7 月豪雨（所謂西日本豪雨）を取り上げ、その被災者を対象に（インターネット）アンケート調査によりデータを収集した。</p> <p>分析の結果より、避難判断における同調性バイアスの影響は周辺住民の動向よりも（遠方を含む）親族などからの情報が判断を促すことが判明した。これは先行研究の結果（周辺住民の行動がより強く避難を促す）とは異なる結果となったが、災害の種類や地域（コミュニティ）特性などを加味した分析による比較による本結果の吟味が必要と考えられる。また、避難判断における参照点の変化については、高学歴ほど参照点が増加する傾向があるとわかったが、データの構成上参照点が増加すること（変化しないこと）と避難判断との関係が不明となった。この関係解明のためさらなる分析を重ねて、参照点と避難の関係を詳らかにする事により避難判断を助ける（促す）政策に資する情報を導出する事などが課題と考えられる。</p> <p>各審査委員からは論文に対して概ね肯定的な意見が出された。 主な質問としては：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アンケートデータの記述統計記載を論文の中でわかりやすくすべき； 2) 被験者の属性分布と当該被災地の母集団の属性分布の比較を行うことにより、分析結果の整合性、一般化が可能になる； 3) 自治体等への具体的な政策提言の追加、等が挙げられた。 <p>2022 年 2 月 22 日に北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 3-329 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(経済学)として十分な内容であると判定した。</p>